

---

# 目病みによる憂鬱と幸福

ケイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

目病みによる憂鬱と幸福

### 【Nコード】

N4619I

### 【作者名】

ケイ

### 【あらすじ】

当初ものもらいだと思われたそれは、まぶたの裏でひしめく異界への道だった。

目を病んだ。

まぶたの裏にできものができたのだ。それらは無数にぶくぶくと浮いてきて、たいへんに痒い。目が見えなくなったわけではないが、まぶたを開けられなければ同じことだ。

「すごい顔ですねえ」

見舞いに来てくれた知人が言う。声に驚嘆が含まれていてはなはだ面白くない。

「医者は何と？」

知るものか。塗り薬を処方して「ものもらい」だとぬかしおつたが、それで納得できるほど症状は甘くない。痛痒さと、もの見えぬ不自由のせいで、最近の私は不機嫌極まりなかった。

むつつりと黙り込んだ私を気遣ってか、知人は「くだものを持ってきましたので」と後で食べるように勧めて帰ってしまった。

私は少々気鬱になりながら反省した。知人は悪くない。病人の不機嫌に付き合わせてしまつて申し訳ないことをした。

手鏡を取り、意外に伸びるまぶたをこじ開けて、その隙間から鏡に映る己を見た。

まったく、なんて顔だ。

まぶたは異常に腫れ上がり、らんちゅうの頭のごとくであった。うつむ、痒い。

鏡を置き、綿棒に塗り薬を擦り付ける。それでできものに薬を塗ろうと試みながら、私はあることに気が付いた。まぶたの中に明かりが差し込むと同時に、見えるはずのないものが見えたのだ。

当初あぶくのように見えたそれは、ぬらりと光って眼球になった。白目の部分は充血しているが、茶色の虹彩が澄んでうつくしかった。

どうやら私自身のものらしいと直感したが、それはありえない。私は綿棒の先の塗り薬を見ているのだ。いやどこを見ているにしても、いくら視界が広がるのが狭かるのが、己の目玉を己の目でみることなどできるものか。鏡を使わずに自分の顔を見るのと同じではないか。いったいどうということだ。

不審に思いながら、麵棒から視線を外し、オドオドと辺りを確認してみる。何も無い。さては幻覚でもみたものか。まさかまぶたの裏に目があったりしてな、と苦笑しながら、できもので盛り上がった皮を持ち上げて、じっと観察してみる。何かが動いた。

声もない。

まぶたの裏には、無数の小さな目玉がぎょろりとこちらを伺っていた。

見間違いを期待してもう一度確認する。いる。こちらを見つめている。ひしめいている。

私は途方にくれてまぶたをもどした。痒みが激しくなってきたが、そんなことを気にする余裕はなかった。なんだこれは。

しばらく呆然としていたが、急に悲しくなつて涙がこぼれてきた。

これはきつと、「途方にくれた」が極まったせいだろう。子どものようにしゃくりあげながら、だらだらと涙をこぼす。目に触れるのが怖いので拭うこともできない。

おんおん泣いていると、涙と一緒に何かがぼろぼろと膝の上に落ちるのを感じた。

見える。

私が泣いている。

わけもわからずにどんどん泣くと、泣いている私もどんどん増えた。

泣いて泣いて、泣き疲れて涙も出なくなったころ。ふと気が付くと目に異物感がなくなっていた。腫れぼったくはあるが、これは泣きすぎたせいだろう。

開くようになった目で、おそろおそろ膝の上を確認すると、無数の小さな目玉がこちらを見つめていた。私はそれらを見つめる無数の私自身も同時に見た。トンボになった気分だ。

にわかに関心が高くなる。

たくさん目玉のうちひとつを手の上にのせてみる。それはくるりと回っていじらしく私を見つめた。意外に愛嬌がある。まぶたの内にあるときは恐ろしくも感じたが、私からこぼれて尚、それはまぎれもなく私の一部であった。

目玉は私の手のひらの上で嬉しそうに私を見つめている。その目

玉に映った私もまた喜びの中にあつた。

急にそれが愛しくなつた私は、衝動的に小さな目玉を飲み込んだ。

目玉は再び私の内側へ戻り、今度はまぶたの裏ではなく、手のひらに出現した。面白くなつて次々に飲み込む。体中が目玉でいっぱいになり、私はかつてない幸福に見舞われた。

こうして私はひとでないものになつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4619i/>

---

目病みによる憂鬱と幸福

2010年10月28日05時08分発行